

第二 近世の中屋村

中屋村となりし近世（徳川時代より明治の初年に至る）の松本、上中屋、大佐野、下中屋、成清、神置（石田村・間島村）の各村の沿革の大略を述ぶべし。

【松本村】上中屋村に屬し（枝村）たりしが維新後村名を唱へ明治三十年四月郡町村發置分合に際し、中屋村の一文字となる。

【上中屋村】往時（鎌倉時代？）上門間庄といふ。松本村小網村（現川島村）等嘗つて本村に屬したりき。旗本坪内氏（新加納坪内氏の分家にして幕末領主は坪内三郎なり）の采地にして、二百六十六石三斗六舛の地なり。明治三十年四月中屋村ろなる。

【大佐野村】上門間庄なり。旗本坪内氏（新加納坪内氏の分家にして幕末領主は帶刀（鉷次郎）といふ）の領にして百三十五石三斗五舛なり。明治三十年四月中屋村となる。

【下中屋村】上門間庄本城郷（中屋は元中井といひしが西入坊由緒参照）といふ。旗本坪内氏（新加納坪内氏なり）

の領。二百四十七石九斗七舛二合。幕末領主は坪内飛騨守定益（文次郎）なり。明治三十年四月中屋村となる。

【成清村】上門間庄といふ。中古御知行所引分けの節成清村、石田村と分郷す。旗本坪内氏（新加納坪内氏の分家に）して幕末領主は坪内帯刀（鉉次郎）といふ。の領にして三百一十一石八斗の地なり。明治三十年四月中屋村となる。

【神置村】石田村ろ間島村の併合村なり。

石田村 中古成清村より分郷せし村なり。明治七年後東門島と合併して神置村となり、次いで明治三十年四月中屋村となる。

間島村 上門間庄といふ。間島村は後東間島村と改稱し明治七年石田村と合併して神置村となり次いで中屋村となる。旗本坪内氏（下中屋と同じ）の采地にして、九十一石二舛なり。美濃志に「間島村は中屋の東南にあり」とあり里人又「下中屋の東南今の木曾川積の地なり」と稱す、今其の地定かならず。美濃志又

日「間島村……・枝村を石田といふ」と。共に
後考を俟つ。